

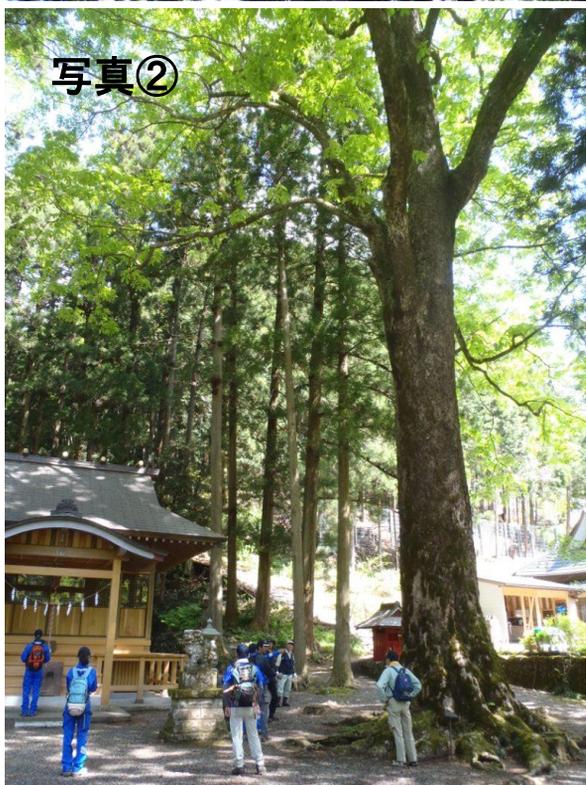
養沢神社のトチノキ(老木)は



写真①

2010年5月15日撮影

写真②



養沢神社のトチノキは、胸高幹周6メートルの巨木で、神社を訪れる人々に緑陰樹として日陰を提供してきました。しかし、巨木＝老木となり、大きな枯れ枝(直径25cm)を落としてしまう存在にもなっていました。

神社を訪れる人々や建物をはじめとして、目の前は都道となっていることなど、事故が起こる可能性はたくさんありました。

写真③



そこで、神社を訪れる人々や神社の建物を守り、その他の事故を防ぐために、2011年の冬、思い切って強剪定を行いました。

写真③は、2011年7月のもので、強剪定後の切り口から萌芽して、茂り始めてきたのがわかります。樹勢のある木であればこのまま枝葉を伸ばしたと思われそうですが、様々な要因で、その後、枯れ始めてしまいました。

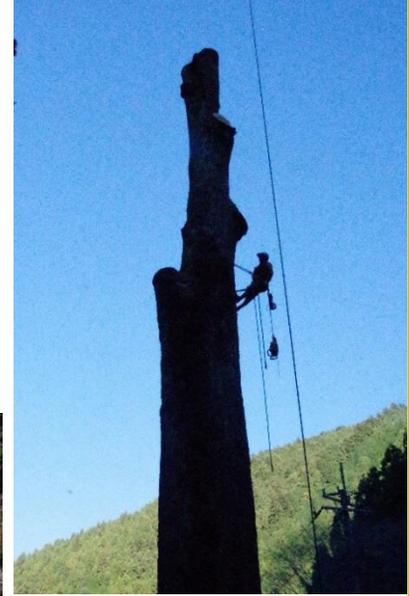


そして、根張りに腐朽が入り、樹体を支持する力がなくなり、何時、どの方向に倒壊するか分からない危険な状態になり、伐採されることになりました。

伐採を前に、これまで神社のシンボリック的存在を示し、神社を訪れる人々に、緑陰を提供し、癒しを与えたことに感謝して、お酒と塩でお清めをしてから作業が始まりました。

枝を切り離し、クレーンでつり下ろすと、半日で丸坊主になってしまいました。

伐採には、「空師(そらし)」と呼ばれる、特殊伐採を専門とする人たちが集まり、安全に手際よく伐採作業が進められました。



巨像の足のような根元の部分、大型トラックの荷台一杯に積み込まれました。このトチノキは、様々な要因が複合的に絡み合い枯れてしまいました。とても残念です。しかし、切り倒してみると、大きな空洞が地表から8m位の高さまで開いており、もし枯れなければ、このまま洞が大きくなり、誰も予測しないときに倒れて大きな事故を起こすことが想像されます。

このトチノキは、製材されて、高級な家具などに生まれ変わって、椅子に座る人、テーブルで食事する人などに、くつろぎや癒しを与えてくる存在になることでしょう。(杉野)

